

平成 27 年度 第 1 回 教職員のための環境学習研修会結果報告

開催日時：5 月 10 日（日）9 時から 13 時 30 分

開催場所：霞ヶ浦環境科学センター 研修室

参加者：小中学校教職員及び湖上体験スクール環境学習担当者 15 名 センター職員 3 名

実施内容

(1) 講義「霞ヶ浦の現状」（水質・生態系サービス・生物多様性）

霞ヶ浦の水質は、平成 25 年度の COD 値が、県の目標値である 7.4mg/L よりも低い 6.8mg/L となっており、水質が改善している。

霞ヶ浦からは、基盤サービス、供給サービス、調整サービス、文化的サービスなどの多くの生態系サービスを受けている。（基盤サービスは、水生生物の生命の存在基盤、淡水の供給による陸上生物の生命の存続の基盤。供給サービスは、水道水や工業用水、そして農業用水などの水資源の供給、レンコンなどの農産物の供給など。調整サービスは、洪水調節機能や気候の安定化機能、そして水資源の安定化機能など。文化的サービスは、歴史遺産、食文化、野鳥観察、水上スポーツ、釣り、観光、霞ヶ浦マラソン、サイクリングなど。）

霞ヶ浦の外来種には、アジア系外来魚であるタナゴやアメリカ系外来魚であるチャネルキャットフィッシュやオオクチバス、ブルーギルなどおり、在来種を脅かしているとのことでした。植物ではミズヒマワリ、貝はカワヒバリガイなどの外来種が広がりつつある。

霞ヶ浦での自然再生事業は、平成 12～14 年に湖岸植生帯の緊急保全対策事業が行われ、現在では田村・沖宿・戸崎地区自然再生事業が行われている。

(2) 講義「環境教育の進め方」－環境教育指導資料から－

（参考資料「環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】）

平成 18 年の教育基本法改正、平成 19 年の学校教育法の改正により、学校教育において、生命及び自然を尊重する精神や環境保全に寄与する態度を養うことが重要な目的となりました。

環境教育指導資料には、環境教育（EE）から持続可能な開発のための教育（ESD）という広い概念への変容が記載されている。小学校における環境教育のねらいは、環境に対するゆたかな感受性を育成すること、環境に関する見方や考え方の育成、環境に働き掛ける実践力の育成である。環境教育の指導の重点は、体験を重視すること、身近な問題を重視すること、そして総合的な把握の必要性である。

(3) 実習「プランクトンの観察」「水質の調査」

教職員対象であったため、観察や調査の内容は大人向けであったが、小中学生に指導する場面も想定してプランクトンの観察と水質の調査の実習を行いました。

観察できたプランクトン

動物プランクトン：カブトミジンコ， マルミジンコ， ケンミジンコ， ワムシ

植物プランクトン：クンショウモ， イカダモ， ミカヅキモ， ハリケイソウ，

アウラコセイラ， ヒメマルケイソウ など

調査した試料水

霞ヶ浦の水， 恋瀬川の水， 巴川の水

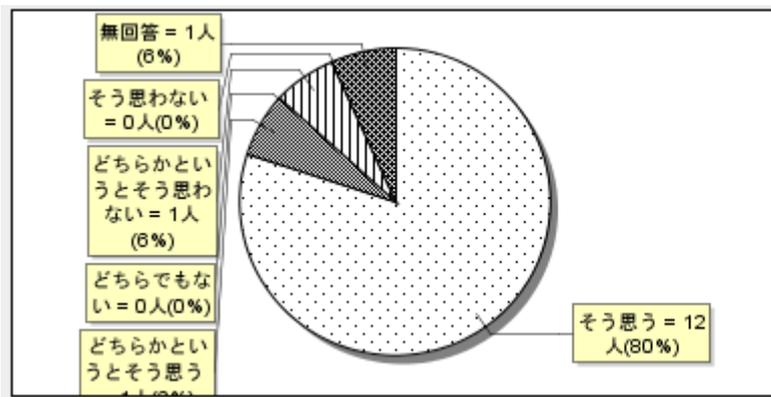
(4) 「環境科学センターにおける環境学習の紹介」

センター内環境学習，出前講座，自然観察会，サイエンスラボ，霞ヶ浦学講座，イベントへの参加の様子を紹介しました。

(5) 参加者のアンケート結果から

○本日の研修に満足されましたか。

そう思う	どちらかという うとそう思う	どちらでもな い	どちらかとい うとそう思わ ない	そう思わない	無回答	計
12	1	0	1	0	1	15
80%	6%	0%	6%	0%	6%	100%



- そう思う = 12人(80%)
- どちらかといううとそう思う = 1人(6%)
- ◎ どちらでもない = 0人(0%)
- ① どちらかといううとそう思わない = 1人(6%)
- そう思わない = 0人(0%)
- 無回答 = 1人(6%)

満足された参加者が多く，有意義な研修となりました。